

郷土の偉人・大島有隣 ―石門心学入門⑫―

大島有隣が、上河淇水と袂を分かつことともなった文化文政（一八〇四～一八二九）という時代は、京都心学の勢力が、求心力を失い、衰退しつつあったことは否定できません。しかし、それは決して石門心学そのものの衰退を意味するものではありませんでした。

現にこの時期の大島有隣の活動、活躍は、目覚ましいものがあります。中沢道二の没後、有隣は、植松自謙と輪番で参前舎舎主を務めるようになります。その参前舎が文化三年（一八〇六）に類焼すると、粉骨碎身、再興に一番尽力したのが有隣でした。同八年五月に有隣は、衰微した蓋簀舎を九段坂上に再建、その経営にもあたっています。

翌九年、石見津和野藩主亀井矩賢の招きに応じ、領内を布教、同様に浜田藩主松平康任の招きで領内を布教し、翌十年まで両藩領内を巡講したようです。続いて、安芸広島城下の藤井栄次郎に招かれ、毎日のように道話を行っていたようです。有隣の著作である『心学初入手引草』には、つぎのように記述されています。



心学初入手引草

（社会教育課 町史・文化財担当編）

〔前略〕芸州広島の下より招きに応じ、大島有隣が、上河淇水と袂を分かつことともなった文化文政（一八〇四～一八二九）という時代は、京都心学の勢力が、求心力を失い、衰退しつつあったことは否定できません。しかし、それは決して石門心学そのものの衰退を意味するものではありませんでした。

※先月号の記事で、大島有隣が上河淇水から三舎印鑑を拒否された件を「文化九年頃の中国地方へ向かう傍ら」としたのは誤りで、正しくは「文化十二年の中国地方からの帰途」でした。訂正させていただきます。

みんなでつくる 愛される図書館⑩

電子図書館

町立電子図書館は、令和4年8月よりスタートした図書館サービスです。町内在住、在勤、在学の方が利用できます。

【電子図書館の便利ポイント！】

- ①スマートフォン等からいつでもアクセスでき、電子図書館にある電子図書を借りて読むことができます。
- ②返却は自動でされるため、返却のために図書館・公民館に来館する必要がない。
- ③汚してしまうことはないため、キッチンや外でも気軽に読書ができる。
- ④音声読み上げ機能で読んでもらうこともできる。

この他にも様々な機能がありますので、ぜひお試しください。

「読みたいな」と思った時に、気軽に借りて読める電子図書館で、充実した読書生活をお過ごしください。

アクセスはこちら



問合せ

町立図書館 ☎ (33) 4056



▲電子図書館トップページ

① ログイン

ログイン画面

利用者ID
図書館利用カード(9桁)

パスワード
生年月日(西暦8桁)

ログインする

※画面は、お使いの端末によって違いがあります。



▲ログイン画面